

MARCESTEL

MARCESTEL 日本神話展

2015年2月3日(火) ⇨ 13日(金)

9:30~17:00 (9日休館・最終日は16:00まで)

九州国立博物館 1階ミュージアムホール

福岡県太宰府市石坂4-7-2 ☎ 092-918-2807(代表)



■主催

マークエステル日本神話展発起人会
(公財)九州国立博物館振興財団・九州経済フォーラム
(一社)地域企業連合会 九州連携機構

■後援

福岡県・福岡市・神社本庁・西日本新聞社
TNC テレビ西日本・TVQ 九州放送
在日フランス大使館 / アンス ティチュ・フランセ日本

■特別協力

久留米運送株式会社・株式会社クリエイツ

九州国立博物館へのアクセス

鉄道(西鉄):「西鉄福岡(天神)」駅から約35分

「西鉄福岡(天神)」駅から西鉄天神大牟田線(特急約13分/急行約17分)で「西鉄二日市」駅乗り換え、西鉄太宰府線(約5分)で西鉄「太宰府」駅下車、徒歩で約10分(*特急/急行料金不要)

鉄道(JR):JR「博多」駅から約35~50分

- JR「博多」駅からJR鹿児島本線(快速約15分)でJR「二日市」駅下車後、
- ① 徒歩(約12分)または西鉄バス(約5分)で「西鉄二日市」駅へ、「西鉄二日市」駅から西鉄太宰府線利用。西鉄「太宰府」駅下車、徒歩で約10分
 - ② タクシーで九州国立博物館まで約15分
 - ③ 西鉄バスで九州国立博物館まで約30分(*1時間に1本運行)

自動車(九州自動車道を利用):太宰府ICまたは筑紫野ICから高雄交差点経由で約20分

お問い合わせ先

マークエステル日本神話展発起人会事務局(一般社団法人 地域企業連合会 九州連携機構内)

福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 福岡商工会議所ビル1階 TEL:092-451-8610 FAX:092-451-8612

MARCESTEL 日本神話展 公式サイト <http://www.aie-kyushu.com/marcestel/>



<http://marcestel.jp/about/>

■ MARCESTEL: マークエステル・スキャルシャフィキ

本名マーク・アントワヌ・スキャルシャフィキ。

1943年2月26日、パリに生まれる。

1951年に両親の営む「ル・カップエステルホテル」に一家で居住。

ホテルはニースとモンテカルロの間、紺碧の地中海に面したコート・ダジュールの海辺に突き出た岬の断崖に建つ。壮大で絵画のように美しい周辺の景観がマークエステルの芸術に寄せる強い憧憬にインスピレーションをあたえる源泉となったに違いない。

彼は、誠実を重んじると同時に大らかで自由な家風の中で育った。また、このホテルに滞在する客は世界中のそうそうたる名士が多く、家族的なホテル内で自然に客たちと親しく交わる特異な雰囲気の中で育った。

米国大統領だったケネディ家の人々、フランス大統領ポンピドー家、ポール・ヘンリー・スパーク、映画俳優ではローレンス・オリビエ卿、デビッド・ニープン、チャーリー・チャップリン、グレタ・ガルボ、アンソニー・クイン、アラン・ドロン、ジーン・ロブリッジ、ペガム、更にモナコの故グレース王妃といった特別の人々もマークエステルにとっては青春時代のごく親しい存在であった。近くに住んでいた世界的画家マルク・シャガールとも個人的な知遇を得る。このような特殊な経験がマークエステルの将来の人生展望に大きな影響をあたえたことは間違いない。

■ 国内受賞歴

平成 17 年

財団法人 神道文化会より

60 周年記念表彰 神道文化功労者表彰を受賞

【受賞理由】

昭和 45 年の来日以来、日本の文化に興味を寄せ、特に「古事記」をもとに神話ゆかりの新刊・神社に参拝しながら、日本の神話を題材とした作品を画き、画集「日本神話」を発表。高い評価を得ている。



(H26.5.22)

平成 26 年 5 月 22 日

下村文部科学大臣より

文化関係者文部科学大臣表彰を受賞

【受賞理由】

永年にわたり日本神話を題材にした数多くの作品を制作し、日本国内を始め、世界各地において発表することを通して、日本文化の国際発信に多大な貢献をした。

マークエステルからのメッセージ

昔、この国を造るために懸命に生きてきた先祖の方々が、人間にとって何が大切なのかを神様たちの物語に託して語られているのが神話だと思います。

それは、将来の子孫たちの、平和と幸福を願う先祖の方々の愛そのものなのです。

私はその愛を絵画で表現しようと思いました。

生命あるものすべてが尊いのです。大自然も私も、そしてあなたも。お互いのことを大切に思いやる愛情があってこそ、現在の課題を解決し、希望ある未来を創っていくことができると私は信じています。

世界に誇れるすばらしい神話を持ち、今もその伝統が生きている日本と出会えたことに感謝します。この神話が長く語り継がれますように。そして皆さんに神様のご加護がありますように。

マークエステル・スキャルシャフィキ

